

■ジオパークと地域活性化について調査開始

本センターでは、雲仙 E キャンレッジプログラムの一環として雲仙市でのフィールド体験活動や公開講座などを開いてきました。今年度は、本センター運営委員の馬越孝道准教授が代表を務める、科学研究費・基盤研究(B)「雲仙・島原における地熱エネルギーを用いた地域力再生プログラムの開発」と、まちづくり支援のNPO法人地域づくり・観光ツーリズム研究所と連携し、ジオパークと地域活性化に関する調査を開始しました。

現在、九州には日本初の世界ジオパークとなった島原半島をはじめ、日本ジオパークに天草御所浦・阿蘇・霧島の3か所が認定されるなど、全国的にもジオパークの密集した地域といえます。一方で、ジオパークのイメージについて、認知度をはじめ、来訪者や地域住民にとってどのような利点や課題があると考えられるのか、早期に整理しておく必要があります。

そこで、2010年11月から12月にかけて学部2～3年の学生たちとともにアンケート調査に赴きました。各ジオパークで100部ずつ、計400部の回答を得、それをもとにジオパークごとにどのようなイメージ等に差があるのか、分析を進めていきます。



島原市・阿蘇市・霧島市・天草市での調査のひとコマ

2月16日(水)には、学生による成果発表の場として、「ジオパークと地域振興を考えるセミナー」を開催します(13:00-14:40、於:環境科学部「学生実験室A」)。学内外をとわず、多くの方のご来場をお待ちしています。

■長崎市環境セミナーが開催されます

本センターがプログラム作成に協力し、副センター長の深見聡准教授が毎回コーディネーターを務める4回完結の市民向けセミナーが開かれます。単発の参加も大歓迎です。

| 日時 | テーマ(案) | 講師 |
|-------------------------|---------------------------------|--------------------------|
| 2月22日(火) 14:00～15:30 | 「気候変動・地球温暖化対策と私たちの生活」 | 長崎大学環境科学部教授 菊池 英弘 |
| 3月1日(火) 14:00～15:30 | 「消費者と生産地の交流から、これからの暮らしを考える」 | 地域づくりアドバイザー 北島 淳朗 |
| 3月8日(火) 14:00～15:30 | 「ごみと私たちの暮らし～学校と家庭・地域で取り組む循環型社会」 | バイオマスタウンアドバイザー 遠藤 はる奈 |
| 3月18日(金) 14:00～15:30 | 「これからの地球環境を身近な地域から考えよう」 | 長崎大学環境科学部准教授 深見 聡 |

【場所】旧長崎内外クラブ(出島内) 【定員】25人(先着順) 【受講料】1回500円(コーヒー、スイーツ代込み)

【申し込み・問い合わせ先】長崎市環境保全課 Tel: 095-829-1156 E-mail: kankyo@city.nagasaki.lg.jp

■ジオパークと地域活性化について調査開始 …… 1
 ■長崎市環境セミナーが開催されます …… 1
 ■随想 一ネイチャーゲーム体験記 …… 2

■連載 インタビュー 環境科学部プロフェッショナル③ …… 3
 長崎まちエコ探検⑦ 時津の継石坊主 …… 4

■随 想 —ネイチャーゲーム体験記—

みなさんはネイチャーゲームというものをご存知ですか？

社団法人日本ネイチャーゲーム協会によると、ネイチャーゲームとは「いろいろなゲームを通して、自然の不思議や仕組みを学び、自然と自分が一体であることに気づくこと」を目的としている自然体験プログラムを指します。

私は2010年12月、縁あってネイチャーゲームに参加することができました。その日は昨日までの雨が嘘のように快晴となり、長崎市民の森 =左下写真= を舞台に9人で3種類のゲームを楽しみました。

その1つに、五感で感じた全てを「重ね言葉(ふわふわ、かさかさ・etc)」で表現しながら、ペアを組み散歩するというものがありました。

この葉っぱは「とげとげ」、だけどあの葉っぱは「もふもふ」！ 風が激しく「ごうごう」になっているね！ ここの土は、いままでよりも「ごつごつ」している！など、手足や肌で感じ、耳をすませ、目を凝らし、パートナーと会話をしながら山道の自然を楽しみます。土、葉、木、鳥、風…。普段は気にも留めない自分の周りの景色を、五感をフルに使って感じることはとても新鮮で、自然の大きさ、豊かさを味わえるものでした。

また、自然の多様性を感じるとともに、ペアを組んでいるので、同じものを見ても人によって感じ方、表現のしかたが異なるという、当たり前でも意外な発見があるのも楽しめました。



ここまで読みすすめられた方のなかには、なんだか子供っぽいゲームだなあとと思われる方もいらっしゃるかもしれません。ところが、実際にしてみると、不思議なものでいつの間にか笑顔でゲームをおこなっているはず。体と心に感じたものをそのまま素直に伝えるというのは楽しいものです。

私は、この活動中に、ふと、もしも将来自分に子どもが生まれたならば、子どもと一緒に同じことをしたいと強く思いました。

こういった体験活動が増え、自然とふれ合うことがもっともっと当たり前になっていけば、自然に対する意識もきっと変わっていき、ひいては他者との違いも認められることができいくのではないだろうかと思います。とても貴重な体験をできた一日でした。



長崎県ネイチャーゲーム協会では、随時、ネイチャーゲーム体験を受け付けているそうです。興味をもたれた方は長崎県ネイチャーゲーム協会：<http://ng-n.jp/>まで。

(取材=2年 江口美里)

センターからのお知らせ

□ボランティアを募集しています□

環境教育研究マネジメントセンターは、学生や地域の方など読者のみなさんの力を必要としています。このニューズレターの企画・作成の補助や発送作業、学生みずからが企画しておこなう課外のフィールド活動などに興味のある方、まずはお気軽に深見までご連絡ください。

■連載

学生が聞き手のインタビュー企画

環境科学部
プロフェッショナル

第3回 菊池 英弘 先生

——自分で見聞きしたことは、強い原動力になる。——



菊池先生と聞き手の学生たち

—学生時代に何か熱中していたことはありますか？

菊池先生 「日本の端から端に行ってみたくて、よく旅行をしていました。金はないけど暇はありました。移動手段は主にオートバイで、一日 300km~400km 運転しました。その際には、テントや寝袋を積んで行き、行き当たりばったりの旅でした。一番遠くて仙台から屋久島まで行きましたね。視界の広がる突端が好きで、最初は岬を目指して走ってました。そのうち運転しながら山が見えるので、空に向かった突端に行きたくなり、山にも行くようになりました。登山は今でも継続中です。」

—先生はいつから環境問題に興味を持つようになったのですか？

菊池先生 「一人旅で訪れた屋久島で縄文杉を見て、その自然度の高さに感動しました。当時は国を挙げてリゾート開発をしていた時代で、屋久島でも開発計画がありました。「大勢の観光客が入るとこの自然が荒れてしまう」と感じたとき、自然保護をするには環境庁に入るしかないと思いつきました。実体験したことは、忘れられないものだなと感じます。」

—最も印象に残った仕事は何ですか？

菊池先生 「入庁して 3 年目に外務省に出向して、バーゼル条約に日本が加入する手続を任せられたことですね。英語で書かれた条約を和訳し、その解釈を明らかにするのが難しかったです。他の国の解釈を知る必要があるときは、国際電話をかけて各国にある日本大使館に調べてもらうなどしました。自分の仕事によって、日本がバーゼル条約のメンバーになったり、環境政策が進むと思うとやりがいに感じました。」

—教授になって環境が変わり、ギャップを感じたことはありますか？

菊池先生 「大勢の人を相手に話し続けることが多くなったことです。授業をしながら学生の様々な反応をみているのは楽しいですね。」

—現在の研究内容について教えてください

菊池先生 「バーゼル条約に関わった経験を基に、その政策決定過程についての論文を書こうと思っています。ちょうど今、査読を受けて、指摘を受けているところです。」

—学生に一言お願いします

菊池先生 「講義を聞きながら、ぜひ疑問点をたくさん見つけてください。勉学に限らず何事に対しても、発信される情報を鵜呑みにせず旺盛な好奇心を持ってほしいですね。」

—ありがとうございました (*右上のロゴは、先生が大ファンのベガルタ仙台のものです。)

(聞き手=4年 竹内さゆり、3年 伊藤かおり、3年 木下智美)

長崎まちEco探検⑦ 時津の継石坊主



継石坊主は、西彼杵郡時津町元村郷の国道 206 号沿いから見える山の斜面にあります。こんな高さ 20m ほどの岩の上に大きな岩石が乗っているようにみえます。今にも転がり落ちそうな不安定な場所のようですが、現在まで落石もせずに残っています。

では、いつからこんな落ちてきそうな状態だったのかというと、すでに江戸時代の書物に記されています。証拠に、文芸作家兼狂歌師として有名だった太田蜀山人(太田南畝)が、この岩を見て、「岩かどに 立ちぬる石を見つつをれば になへる魚も さはくちぬべし」という歌を詠みました。現代語風に言い換えると、「あの岩かどの石が、今にも落ちてきそうだと怖がっていたら、つい鯖を腐らせてしまった」となります。この歌にちなんで、別名「鯖くさらかし岩」とも呼ばれています。

(取材=2年 峯 美枝)

シンポジウムのご案内

ジオパークにおける低炭素まちづくりと地域再生 ～温泉エネルギー活用の明日を語る～

雲仙市小浜温泉では、豊富な未利用温泉をエネルギーとして活用する取り組みに挑戦しようとしています。この計画のスタートにあたり、最先端の研究者を招き、島原半島ジオパークならではの“まちづくり”について考えます。

第1部 講演「自然エネルギーを活かした低炭素まちづくり」—諸富 徹 氏 (京都大学教授、中央環境審議会委員)
「地熱エネルギー利用の最先端」—江原 幸雄 氏 (九州大学教授、前・日本地熱学会会長)

第2部 パネルディスカッション 「温泉地における低炭素まちづくりと地域再生」
パネリスト：加藤 仁 氏 (三菱重工業株式会社 エネルギー・環境事業統括戦略室長)
朝野 泰昌 氏 (湯村温泉「朝野屋」代表取締役社長)
本多 宣章 氏 (小浜温泉エネルギー活用推進協議会会長、第12代小浜温泉湯大夫)

コーディネーター：深見 聡 氏 (長崎大学環境科学部准教授) コメンテーター：諸富 徹 氏、江原 幸雄 氏

日時 平成 23 年 3 月 7 日 (月) 14:00～17:00 場所 雲仙市小浜公会堂

対象 一般 (事前申込は不要です) 参加費 無料

問い合わせ先 長崎大学環境科学部馬越研究室 Tel・Fax (095) 819-2766 E-mail obama_symposium@yahoo.co.jp
主催/小浜温泉エネルギー活用推進協議会 (仮称) 共催/長崎大学

□ ■ 編集後記 ■ □

明けましておめでとうございます。第9号の刊行が遅れたことで、期せずしてさまざまなイベント等の案内を掲載できました。/今号から学生ボランティアが1名加わり計4名の協力のもと、充実した紙面作りができたのではないかと考えています。/2月7日～11日には、センターも協力している、潜在型学習プログラム「ながさき地域発見大学」が開講されます。新年早々その準備に走り回っています。/ニューズレター第10号は、3月25日付で発行予定です。(深見)

環境教育研究マネジメントセンター News Letter (第9号)

2011年1月25日発行

長崎大学環境科学部環境教育研究マネジメントセンター
〒852-8521 長崎市文教町 1-14

URL <http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/>

Tel&Fax 095-819-2720(深見聡研究室気付)

E-mail fukami@nagasaki-u.ac.jp

(編集長：深見 聡)

印刷：川口印刷(株)